

東山梨地区中学校社会科部会 研究の経過と概要

1. 東山梨地区中学校社会科部会研究テーマ

『科学的社會認識を育てる授業研究』～身近な資料を用いた授業研究～

2. テーマ設定の理由

東山梨中学校社会科部会では「『科学的社會認識を育てる授業研究』～身近な資料を用いた授業研究～」をテーマに研究を進めてきた。このテーマのもと、授業研究の実施、臨地研修、各自の授業実践報告、情報交換等、これまでの研究を継承する形で進めてきた。

科学的社會認識を獲得するために必要な方法を研究することにより、次のような生徒の育成につながるものと考え研究を進めてきた。

- ①学習課題に主体的に向き合える生徒
- ②追究すべき課題を明確にとらえることのできる生徒
- ③自ら、また他者と協力して考えを深め、客観的な判断を下すことのできる生徒
- ④出した結論を様々な資料や他者の意見を参考にしながら検証することのできる生徒

このことこそが、最終的に市民的資質を持った人間形成につながると考える。そこで、生徒にとって身近な資料を活用することは、「その結果」を導き出す際の大きな手がかりとなるはずであり、それは科学的社會認識を育てるための一つの手段ともなるのだと考える。

3. 研究の方法

◎臨地研修の実施

①地域資料の教材化を図るための臨地研修

②授業研究「地域の遺跡や古墳を訪ねて～山梨の古墳を調べよう～」に向けて、主に笛吹市にある古墳時代の遺跡を訪れた。東日本最大級の姥塚・岡銚子塚古墳や県内唯一の方墳である竜塚、加えて千米寺・石古墳群をみて、古墳時代の山梨県の様子を考える研修を行った。

◎授業研究「中学1年歴史的分野 古墳時代」について、部会全員が一人一事例の略案の作成をし、検討を行った。

◎授業研究の実施（8月28日実施）

◎各校授業実践報告（2回）

◎学校間の情報交換

4. 報告書作成参加者・共同研究者

山本裕（山梨南中） 内田英太（山梨南中） 宮川啓一郎（山梨南中）
武藤英紀（松里中） 武井晴彦（笛川中） 古屋勝之（山梨北中）
志村真宏（山梨北中） 小河照幸（勝沼中） 澤登正仁（塩山中）
澤邊裕美子（塩山中） 金森淳（塩山中） 深澤歩未（塩山中）
三枝比出夫（塩山北中） 前島香織（大和中）

助言者：小林誠一（山梨南中校長）・内田智之（松里中校長）

加山大洋（塩山中教頭）・古屋真吾（大和小教頭）

5. 研究経過

5月 8日 組織づくり
5月20日 部会の運営方法、本年度の研究テーマおよび研究計画づくり
6月 3日 授業案検討①
8月 3日 午前：臨地研修（笛吹市内の古墳時代の遺跡巡り）
午後：授業案検討②
8月28日 授業研究 澤邊裕美子教諭（塩山中）
9月30日 小中合同で中間報告会（秋季教研）小中授業報告，小中研究
中間報告県教研レポーター決定，研究の経過と概要の検討
など

6. 今後の研究予定

11月25日 臨地研修
1月13日 各校授業実践報告（山梨市内）
2月 3日 各校授業実践報告（甲州市内）
2月10日 冬季教研
小中授業報告・小中研究報告・研究のまとめ

地域の遺跡や古墳を訪ねて～山梨の古墳から～

甲州市立塩山中学校 澤邊 裕美子

はじめに

本年度、東山梨中学校社会科部会では、『科学的社會認識を育てる研究』～身近な資料を用いた授業研究～」をテーマに研究を行うこととなった。そこで、第1学年の歴史的分野の学習において、身近な地域の歴史について教材化として活用できる題材を検討した結果、山梨の古墳を取り上げることにした。

古墳は、時代を超えて現代まで残る貴重な文化財であり、実際に出向いてその存在を確認することができる点で、身近な資料として非常に有効な題材であるといえる。古墳時代の山梨においては巨大な前方後円墳をはじめとして、様々な種類の古墳が築造されており、当時の地域の歴史を知る上での手がかりとなるものである。

古墳の学習については、小学校の段階で前方後円墳（大山古墳など）すでに学習済みであり、さらに中学歴史の教科書においても全国各地の前方後円墳と大和政権との関連について取り上げられている。そこで、前方後円墳以外の古墳についてはほとんど知らないという生徒の実態を踏まえて、当時山梨にもつくられた様々な古墳について調べるといふ活動を中心に授業を組み立てることとした。当時の山梨につくられた様々な古墳について学ぶことにより、畿内中心の内容になりがちな古墳時代について、生徒にとってより身近なものとしてとらえさせることをねらいとした。また、取り上げる資料としては、現在も残る古墳に実際に出向いて撮影した写真を提示することや、山梨における考古学研究的最新の成果を活用することを心掛けた。客観的な事実としての身近な資料を用いて学習することにより、生徒の科学的社會認識を育てることにつながるものとする。

第1学年 社会科学習指導案

指導者 甲州市立塩山中学校 澤邊 裕美子

1. 単元名 古代中国と「倭」の王権

2. 単元について

本単元は、学習指導要領の内容『(2) 古代までの日本』における中項目「ア 世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりなどを通して、世界の各地で文明が築かれ、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解させる」に基づいて設定したものである。古代のヨーロッパや東アジアで国家が形成されていく大きな流れを扱っている。この時期の日本において、縄文時

代、弥生時代を経てくに（国）が生まれた。稲作の広まりによってむらが集まりくにの形成が進み、有力なくにが連合して大和政権となり、他のくにを従えていく形で統一されていった。その後大和政権は勢力を強め、5世紀までには九州から東北地方南部まで勢力を拡大し、各地の豪族を従えた。

国家としての基本的な枠組みが形成されていったこの時代に、豪族の権力の象徴として前方後円墳が各地につくられた。古墳の規模や分布・出土品からは、大和朝廷の勢力の拡大や大陸との交流がうかがうことができる。山梨県においても大型の前方後円墳がつくられており、中には東日本最大級の古墳もあることから、当時有力な権力者が存在していたと考えられている。また古墳の出土品からは、大和朝廷や各地の前方後円墳との関連性も指摘されている。今回は、生徒にとって身近な山梨の古墳を取り上げることで、大和朝廷の勢力の拡大と郷土の歴史を関連づけて理解できるようにしていきたい。小学校での既習内容を生かす工夫を行いつつ、身近な地域の歴史を調べることにより、今後の歴史的分野への学習への興味・関心を高めることにもつながると考える。

3. 研究とのかかわりについて

研究テーマである「『科学的社会認識を育てる授業研究』～身近な資料を用いた研究～」から、本部会では、「科学的とはしっかりとした法則に基づいた結果としての事実であるべきだ」との考えのもとに、それは時代の特性を超えて人類社会の普遍性を示すものであるべきだとしている。その社会認識を獲得するために必要な方法を研究することにより、次のような生徒の育成につながるものと考ええる。

- ①学習課題に主体的に向き合える生徒
- ②追求すべき課題を明確にとらえることのできる生徒
- ③自ら、また他者と協力して考えを深め客観的な判断を下すことのできる生徒
- ④出した結論を様々な資料や他者の意見を参考にしながら検証することのできる生徒

このことこそが、最終的に市民的資質をもった人間形成につながると思う。そこで、生徒にとって身近な資料を活用することは、「その結果」を導き出す際の大きな手がかりとなるはずで、科学的社会認識を育てるための一つの手段ともなるといえる。このような考えから、本単元では、山梨県の古墳分布についての資料を読み取る中で、学習課題に主体的に向き合い、また他者と協力して考えを深め、客観的な判断を下すことができることを目指していきたい。

4. 生徒の実態

1年4組は男子14人、女子16人の合計30人のクラスである。クラスの雰囲気は明るく元気で、授業においても積極的に発言することができている。授業中のグループ活動時も互いに教え合い、協力して活動することができる。しかし、資料から社会的事象を読み取ることや、自分の考えを文章で表現することを苦手とする生徒が多

い。資料を多く用いた授業を展開する中で、読み取る力や自分の考えをまとめる力を育てていきたい。また、グループによる話し合い活動を取り入れることでともに学び合い、意見を交換する中で考えを深めることにつなげていきたい。

事前に行ったアンケートでは、社会科が好きと答えた生徒が14人、社会科が嫌い
と答えた生徒は2人、社会科の中での好きな分野が歴史と答えた生徒は18人であっ
た。今回、身近な地域の資料を用いることで、歴史的事象を身近に感じさせ、生徒の
社会科に対する興味関心を高めていけるようにしたい。

5. 単元の目標

- 紀元前後の世界では、中国や地中海地域に統一国家が成立し、東西の交流が行わ
れていたことを理解する。
- 日本列島での農耕の広まりによる人々の生活の変化に気づき、国家が形成されて
いく過程のあらましを東アジアとの関わりを通して理解する。

6. 単元の評価規準

- 紀元前後の世界の動きや、日本列島での人々の生活の変化に対する関心を高め、
国家が形成されていく過程について意欲的に追究しようとしている。【関心・意
欲・態度】Ⅰ
- 日本列島における農耕の広まりと生活の変化や、当時の人々の信仰、大和政権に
よる統一と東アジアとの関わりなどについて多面的・多角的に考察し、その過程
や結果を適切に表現している。【思考・判断・表現】Ⅱ
- 中国や地中海地域に成立した統一国家の特色、日本列島における農耕の広まりに
よる人々の生活の変化、大和政権による統一と東アジアとの関わりに関する様々
な資料を活用し、読み取ったり図表にまとめたりしている。【資料活用の技能】
Ⅲ
- 中国や地中海地域に統一国家が成立し、東西の交流が行われていたころ、日本列
島では農耕の広まりによって人々の生活が変化し、しだいに国家が形成されてい
ったことを、東アジアとの関わりを通して理解し、その知識を身に付けている。
【知識・理解】Ⅳ

7. 単元の指導計画

時	○学習内容 ◆目標	評価規準
1	○東と西をつなぐ道 ◆中国で統一国家の成立後、ローマ帝国と の交通路が開かれたことを理解し、朝鮮半 島の国々の動きに倭(日本)も関わっている	中国とローマ帝国との交流に関心を高 め、中国、朝鮮半島の国々やヨーロッ パの動きを意欲的に調べようとしてい る。【Ⅰ】

	<p>ことに気づく。</p> <p>◆ローマ帝国では、実用的な文化が発展したことや、西アジアでおこったキリスト教が国教となりヨーロッパに広まっていったことを理解する。</p>	<p>中国で統一国家が成立し、ローマ帝国との交通路が開かれたことや、朝鮮では三国が成立したこと、ローマ帝国で実用的な文化が発展したこと、キリスト教がヨーロッパに広まっていったことを理解している。【Ⅳ】</p>
2	<p>○楽浪の海中に倭人あり</p> <p>◆弥生時代の人々の暮らしは、縄文時代と比べてどのように変化したのかを、遺跡や出土物から考える。</p> <p>◆稲作の広まりによって貧富や身分の差が生まれ、くに（国）の形成が進んだことを、邪馬台国を例に理解する。</p>	<p>邪馬台国の政治や人々の暮らしに関心を高め、意欲的に調べようとしている。【Ⅰ】</p> <p>むらからくに（国）が形成されていった社会的背景や、倭の国王や卑弥呼が中国に使いを送った理由について考察している。【Ⅱ】</p>
3	<p>○郷土の歴史を探ろう「地域の遺跡や古墳を訪ねて～山梨の古墳を調べよう～」</p> <p>◆山梨の古墳時代の様子やその変化について、古墳の特徴や分布から推測して考える。</p> <p>◆身近な地域の資料を使って調べることにより、山梨の古墳の特徴や分布について読み取ることができる。</p>	<p>山梨の古墳時代の様子や変化について、資料から推測して考え、自分なりの言葉で説明している。【Ⅱ】</p>
本時		<p>山梨にある古墳の形や特徴、その分布について、資料から読み取ったり図表にまとめたりしている。【Ⅲ】</p>
4	<p>○東アジアの中の大和政権</p> <p>◆古墳の規模や分布などから、近畿地方で大王を中心とする大和政権が成立し、各地に勢力を拡大したことを理解する。</p> <p>◆大和政権が朝鮮半島の国々との関係を深め、盛んに交流した理由について、渡来人の果たした役割との関わりから考える。</p>	<p>大和政権の勢力の強さや広がりについて、古墳の規模や分布、出土品から読み取っている。【Ⅲ】</p> <p>近畿地方の豪族が大王を中心に大和政権をつくり、各地に勢力を拡大したことや、渡来人が大陸の優れた技術や漢字・仏教などを伝えたことを理解している。【Ⅳ】</p>

8. 本時の授業

(1) 日時 2015年8月28日 金曜日 14:00～14:50

(2) 場所 甲州市立塩山中学校 1年4組教室

(3) 題材 「地域の遺跡や古墳を訪ねて～山梨の古墳を調べよう～」

(4) 目標

- ・身近な地域の資料を使って調べることにより、山梨の古墳の特徴や分布について読み取ることができる。【資料活用の技能】
- ・山梨の古墳時代の様子やその変化について、古墳の特徴や分布から推測して考える。【社会的な思考・判断・表現】

(5) 展開

段階	学習活動・学習内容	教師の発問・支援	評価	指導上の留意点【学習形態】
導入 1 0 分	<p>○山梨にある様々な種類の古墳について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の古墳（天神塚古墳）について知る。 ・クイズで古墳の形を紹介する。 * 銚子塚古墳（前方後円墳） * 丸山塚古墳（円墳） * 竜塚古墳（方墳） * 小平沢古墳（前方後方墳） * 狐塚古墳（帆立貝式古墳） 	<p>○天神塚古墳の写真を電子黒板に提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古墳の写真を提示し、形と名称を確認させる。 ・小学校での既習事項を確認する。 		<p>本時の学習内容を理解させる。</p> <p>【全体】</p>
展開 3 0 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">古墳年表から山梨の古墳の特徴を調べよう</div> <p>○古墳年表から読み取った内容を班ごとにホワイトボードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 形（前期、中期、後期） * 大きさ（前期、中期、後期） * 地域（前中期、後期） <p>○古墳年表から読み取った内容を全体に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年代ごとの古墳の特徴（形・大きさ）を確認する。 <p>前期：前方後円墳、前方後方墳、規模が大きい</p> <p>中期：前方後円墳、円墳、方墳、小さくなる</p> <p>後期：円墳、（横穴式石室）小さくなる</p>	<p>○本時の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取る内容の分担について説明する。 ・班ごとに古墳年表とホワイトボード、ペンを配布する。 ・形や大きさ、地域の年代ごとの特徴に気づかせ、ホワイトボードにまとめさせる。 ・ホワイトボードを黒板に貼り、1つの表として統合する。 ・年代ごとの古墳の特徴に気づかせる。 ・横穴式石室や群集墳について説明する。 ・古墳の場所が分かる地図 	<p>山梨の古墳の特徴や分布について、資料から読み取りまとめることができる。</p>	<p>3～4人の社会科班の隊形をつくり、話し合いをさせる。</p> <p>【グループ】</p> <p>班の役割分担を決めて活動するよう指示する。</p> <p>黒板に貼ったホワイトボードの内容を板書するよう指示する。</p> <p>班の代表者に発表させる。</p> <p>【全体】</p>

	<p>・年代ごとに古墳が多い地域を確認する。</p> <p>前中期: 中道、八代、豊富・三珠、白根・櫛形</p> <p>後期: 双葉・竜王・敷島・甲府、一宮・御坂、石和・春日居</p>	<p>を提示し、古墳の分布を確認する。</p>		
まとめ	<p>古墳時代の山梨がどんな様子だったか考えよう</p>			
10分	<p>○古墳年表から読み取った内容や地図の分布をもとに、ワークシートに自分の考えを記入する。</p> <p>前～中期: 甲府盆地南部に大型の前方後円墳→強い力を持った豪族がいた</p> <p>後期: 甲府盆地北部と一宮～御坂地域に円墳→力を持った勢力が県内を二分</p> <p>・ワークシートに書いた考えを発表する。</p>	<p>○古墳時代の山梨の様子や年代ごとの変化について気づかせる。</p> <p>・数名を指名し発表させる。</p> <p>・古墳の多い地域の変化については道との関連性を説明する。</p> <p>・古墳をつくる層の変化や古墳の立地、人々の思いについても触れ、古墳時代の様子をイメージさせる。</p>	<p>山梨の古墳時代の様子や変化について、資料から推測して考え、自分なりの言葉で説明している。</p>	<p>本時に学習した内容を確認し、自分の考えをまとめるよう指示する。</p> <p>【個人】</p> <p>【全体】</p>

《板書・ワークシートより》

1、古墳年表から、山梨の古墳の特徴を調べよう！

形	大きさ	地域
<p>・前方後円墳が多い。</p> <p>・前期にだけ、前方後円墳と、墳形不明がある。</p> <p>・前期は古墳が少ない。</p>	<p>4班 (前期 大さ)</p> <p>・300年～100年までは50mを小さく。</p> <p>・350年～100年ほどは100m以上</p> <p>・中期・後期に比べて前期は大きい。</p>	<p>前期</p> <p>・中道が多い。4</p> <p>・八代...1</p> <p>・一宮御坂...1</p> <p>中期</p> <p>・中道多い。5</p> <p>・豊富...1</p> <p>・八代...4</p> <p>・白根豊富...4</p> <p>・塩川...3</p> <p>甲府盆地に多い</p>
<p>・円墳が多い</p> <p>・前方後円墳が2つある</p>	<p>5班 中期</p> <p>・10～15mくらい。</p> <p>・前期と比較すると小さい。(甲府盆地)</p> <p>・後期と比較すると少し大きい。</p>	
<p>・横穴式円墳が多い。</p> <p>・前方後円墳と前方後方墳が1つもない。重要</p>	<p>6班</p> <p>・たいたいの古墳の大きさが90m以下</p> <p>・最大の古墳の大きさが「新井神社」の62m</p> <p>・最小の古墳の大きさが「池原塚3号墳」の6m</p>	<p>8班 後期地域</p> <p>・双葉 竜王 甲府 敷島</p> <p>・横穴式円墳が一番多い。</p> <p>・次に一宮・御坂に横穴式円墳が多い。</p> <p>・ほとんどの横穴式円墳だ！</p>

《地域の遺跡や古墳を訪ねて ～山梨の古墳を調べよう～》

組 番 氏名

1、古墳年表から、山梨の古墳の特徴を調べよう！

(どんな形が多いか、大きさはどれくらいか、どの地域に多いか・・・)

	形	大きさ	地域
前 期	①	④	⑦
中 期	②	⑤	
後 期	③	⑥	

2、年代ごとの古墳の特徴や地図の分布から、どのようなことが想像できるだろうか。古墳時代の山梨がどんな様子だったか(どんな変化があったか)考えてみよう！

前中期

まとめ

(1) 成果について

今回の実践においては子どもたちに身近な山梨の資料を用いたことで、古墳時代に対する興味関心のある程度高めることができたのではないかと考えている。

県内各地の古墳の資料（年表や写真）を提示した際、子どもたちは身近な地域に古墳があることに対して驚いていた。また、古墳年表の中にあつた県内の地名（中道・豊富などの旧町村名）について、正しい読み方を初めて知つたという生徒が多く、日頃から山梨県内の歴史やニュース等に触れていく必要性を感じた。

資料の作成については、文献を参考に作成した古墳年表や、実際にフィールドワークを行い撮影した古墳の写真など、教材研究の段階から時間がかかり苦労することが多かった。しかし、自らの足で稼いだことによってリアリティが得られ、それが生徒を引き付けるきっかけとなることを実感することができたように思う。

(2) 課題について

資料の古墳年表を読み取る活動については、どの班も目標を達成出来ていた。ただ、調べたことの発表で終わってしまったので、その点で課題が少し易しすぎたのかもしれない。ワークシートに自分の考えを記述する場面では、古墳時代の山梨の様子についてなかなか考えを出せない生徒もいた。古墳時代のイメージを膨らませるために、写真や絵などの補助資料も提示したが、その提示の順番などもっと工夫が必要だったと感じている。

研究会においては「主発問がなかったのではないか」という意見をいただいた。話し合い活動の場面では自分の考えを持てる課題を設定し、班員同士で考えの交流ができると良かったのかもしれない。また、今回とは逆の「ジグソー学習」のパターン（4つのテーマを7～8人で調べ、4人班に戻って考えを伝えまとめる）も使えたのではないかとの意見をいただいた。班での話し合い活動を中心に据えた授業の手法や構成については、もっと工夫が必要だったように感じている。子どもたちの力を信じて、考えを持てるだけの材料をしっかりと用意し、学びをコーディネートするという姿勢の大切さを改めて学ぶことができた。

最後の場面では、今回の研究実践を通して自分自身が感じたことを話してまとめとした。実際に歴史の舞台となった場所を訪れ、学ぶことの面白さや楽しさについて「タイムスリップ」という言葉を使って表現した。それは単に充実した時間が過ごせるだけでなく、一つのことを深く学ぶことによって自分の人生そのものを充実させることができるともいうことができるだろう。

身近な資料を用いることは、地域に「あるもの」に気付く機会にもなり、地域に対

する愛着を育むことにもつながるのではないだろうか。身近な資料を通して子どもたちが課題に主体的に向き合い追究することで、科学的社会認識を育んでいけるよう、これからも日々の授業の中での実践を続けていきたい。